

8月 14-20 日

ネヘミヤ 8-9 章

110 番の歌と祈り 米山 英行

開会の言葉（1分）竹林 直毅

神の言葉の宝

「エホバからの喜びは皆さんの力となる」（10分）長谷川 瑛一

宝石を探し出す（10分）阿部 直生

ネヘ 8:2, 8

集まっていた人たちが律法の朗読を「聞いて理解できる年齢」だったのであれば、なぜレビ族の人たちは律法について説明したのか。（洞-1 143 ページ 3 節）*** 洞-1 143 ページ アラム語 ***
ユダヤ人がバビロニアでの流刑から帰還して何年もの後、祭司エズラはエルサレムに集合したユダヤ人に律法の書を読み、色々なレビ人がそれを民に説明しました。ネヘミヤ 8章8節はこう述べています。「彼らは書、すなわちまことの神の律法を朗読し続け、それは説き明かされ、それに意味を付すことがなされ、こうして彼らはその読むところの理解を得させるのであった」。この説き明かし、もしくは解釈には、ヘブライ語の本文をアラム語に、つまりヘブライ人がバビロンにいた時に恐らく取り入れたと考えられるアラム語で言い換えることが関係していたのかもしれませんが、この説き明かしには、ユダヤ人がたとえヘブライ語を理解したとしても、読まれている事柄の深い意味を理解できるように解説することも関係していたに違いありません。

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。仮小屋の祭りは、エホバがエジプトの地からご自分の民を携え出された際のようなお世話を思い起すものでしたが、9:21には、服が擦り切れず、足も腫れないようされた、簡単に判別できない祝福も挙げられている。私たちも自分の知らなかったところで、どんなに沢山の助けを得てきたか、これからもじっくり考え、エホバへの感謝を深めていきたいと思う。

聖書朗読（4分）ネヘ 8:1-12（教励 第 10 課）五味 統

野外奉仕に励む

最初の話し合い（3分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。宣教ツールボックスの出版物を提供する。（教励 第 13 課）吉田 明美 13 高橋 綾子

再訪問（4分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。集会に招待する。「王国会館においでください」の動画を紹介し、話し合う。（再生しない）（教励 第 11 課）田島 智子 11 中田 由美

クリスチャンとして生活する

[132 番の歌](#)

「[家族の幸せのために一人一人にできること](#)」（15分）討議。[動画](#)を視聴する。星 延宏

会衆の聖書研究（30分）[暮 レッスン 54](#) 水品 安章 朗読：伊藤 勇一

閉会の言葉（3分）

[123 番の歌](#)と祈り 大谷 正

^ [（ネへ 8:1-9:38）](#) 民は皆、「水の門」の前の広場に同じ思いで集まった。そして写字生*エズラに、エホバがイスラエルに命じたモーセの律法の書を持ってくるよう頼んだ。2それで祭司エズラは、男性や女性、聞いて理解できる年齢の人たちから成る会衆の前に律法を持ってきた。第7の月の1日のことである。3エズラは「水の門」の前の広場の前で、夜明けから真昼まで、男性や女性、理解できる年齢の人たちにそれを読み聞かせた。民は律法の書の朗読に注意深く耳を傾けた。4写字生*エズラは、この時のために作られた木製の演壇に立っていた。そばには、右側にマタテヤ、シェマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤ、マアセヤが、左側にペダヤ、ミシャエル、マルキヤ、ハシュム、ハシュ・バダナ、ゼカリヤ、メシュラムが立っていた。5エズラは、民よりも高い位置にいたので、律法の書を開くと、皆から見えた。彼がそれを開いた時、民は皆立ち上がった。6それからエズラが、偉大な方、真の神エホバを賛美すると、民は皆「アーメン*！アーメン！」と言って手を挙げた。彼らは身をかがめてエホバにひれ伏した。7エシュア、バニ、シェレブヤ、ヤミン、アクブ、シャベタイ、ホディヤ、マアセヤ、ケリタ、アザリヤ、ヨザバド、ハナン、ペラヤというレビ族の人たちが民に律法を説明し、民は立ったままだった。8彼らは真の神の律法の書を朗読し続け、分かりやすく説明して意味を教えた。読まれた箇所を理解できるよう、民を助けたのである。9総督*ネヘミヤ、写字生*である祭司エズラ、民を教えていたレビ族たちは民に言った。「今日はエホバ神にとって聖なる日です。嘆き悲しんだり、泣いたりしてはいけません」。民は皆、律法の言葉を聞いて、泣いていたのである。10ネヘミヤは民に言った。「行って、最上の*ものを食べ、甘いぶどう酒を飲み、何も用意していない人には食べ物を分けてあげなさい。今日は私たちの主にとって聖なる日だからです。悲しんではいけません。エホバからの喜びは皆さんの力*となるのです」。11レビ族たちも、「泣くのをやめなさい。今日は聖なる日です。悲しんではいけません」と言って、民を落ち着かせた。12こうして民は去って行って食べたり飲んだりし、食べ物を分け、大いに喜び楽しんだ。自分たちに語られた言葉を理解したからだだった。13翌日、民の氏族長たちと祭司やレビ族たちは、写字生*エズラの所に集まった。律法の言葉を深く洞察できるようになるためだった。14彼らは律法の中に、エホバがモーセを通して命じた次のことが書いてあるのを見つけた。イスラエル人は第7の月の祭りの間、仮小屋に住むことになっており、15布告を出して全ての町々やエルサレム中にこう知らせなければならな



エズラが人々に律法を読み聞かせ、エホバを賛美している。

神の言葉の宝

「エホバからの喜びは皆さんの力となる」

人々は集まって、エズラが律法を朗読するのを聞いた。(ネへ 8:1, 2 民は皆、「水の門」の前の広場に同じ思いで集まった。そして写字生エズラに、エホバがイスラエルに命じたモーセの律法の書を持って来るよう頼んだ。²それで祭司エズラは、男性や女性、聞いて理解できる年齢の人たちから成る会衆の前に律法を持ってきた。第7の月の1日のことである。塔 13 10/15 21 ページ 2 節) その集まりの1か月前に、ユダヤ人はエルサレムの城壁の再建を終えていました。(ネへ 6:15) 神の民はその仕事をわずか52日で成し遂げ、その後、霊的な必要に注意を向けます。ティシュリの1日、彼らは公共の広場に集まります。エズラや他のレビ人たちが神の律法を朗読し説明するのを聞くためです。(場面1) 家族全体が、「すべて聴いて理解できる人々」を含め、「夜明けから真昼まで」立ったまま耳を傾けました。今日のわたしたちにとって非常に優れた手本です。わたしたちは快適な王国会館で集会に出席できます。しかし、時に思いがさまよい、あまり重要でない事柄を考え始めてしまうでしょうか。もしそうであれば、イスラエル人の手本を思い起こしましょう。彼らは耳を傾けただけではありません。聞いた事柄を心に銘記し、国民として神の律法に従わなかったことを悟って泣き始めたのです。—ネへ 8:1-9。表紙の絵を参照)

過去の罪を悲しむ時ではなく、エホバを崇拝して喜ぶ時だった。(ネへ 8:9 総督ネヘミヤ、写字生である祭司エズラ、民を教えていたレビ族たちは民に言った。「今日はエホバ神にとって聖なる日です。嘆き悲しんだり、泣いたりしてはいけません」。民は皆、律法の言葉を聞いて、泣いていたのである、11, 12 レビ族たちも、「泣くのをやめなさい。今日は聖なる日です。悲しんではいけません」と言って、民を落ち着かせた。¹² こうして民は去って行って食べたり飲んだりし、食べ物を分け、大いに喜び楽しんだ。自分たちに語られた言葉を理解したからだだった)

エホバに仕える人たちにとって、エホバからの喜びは力となる。(ネへ 8:10 総督ネヘミヤは民に言った。「行って、最上のものを食べ、甘いぶどう酒を飲み、何も用意していない人には食べ物を分けてあげなさい。今日は私たちの主にとって聖なる日だからです。悲しんではいけません。エホバからの喜びは皆さんの力となるのです」。塔 07 7/15 22 ページ 9-10 節 *** 塔 07 7/15 22 ページ 9-10 節 あなたは「霊によって歩んでゆき」ますか *** 喜びとは、とても幸福に感じている状態です。エホバは「幸福な神」です。(テモテ第一 1:11。詩編 104:31) み子は父のご意志を行なうことを喜びとしています。(詩編 40:8。ヘブライ 10:7-9) そして、「エホバの喜びは[わたしたちの]とりで」です。—ネヘミヤ 8:10。¹⁰ たとえ苦しい時や悲しい時あるいは迫害のもとでも、神のご意志を行なうなら、神の与えてくださる喜びによって深く満ち足りた気持ちになります。「まさに神についての知識」を持っているわたしたちは、なんと幸福なのでしょう。(箴言 2:1-5) 神との喜ばしい関係は、正確な知識

と、神に対する信仰、またイエスの贖いの犠牲に対する信仰に基づくものです。(ヨハネ第一 2:1, 2)そして、ただ一つしかない真の国際的な兄弟関係の中にいることも、喜びです。(ゼパニヤ 3:9。ハガイ 2:7)また、王国の希望があり、良いたよりを宣明する大きな特権があることを思うと、喜びに満たされます。(マタイ 6:9, 10; 24:14)さらに、永遠に生きるという見込みもあります。(ヨハネ 17:3)そのような**壮大な希望があるのですから、『ただ喜びに満たされる』はず**です。—申命記 16:15。)



考えてみよう 「**大変な時も、どんなことを考えると喜べるだろうか**」。

^ (ネへ 8:1, 2) 民は皆、「水の門」の前の広場に同じ思いで集まった。そして写字生*エズラに、エホバがイスラエルに命じたモーセの律法の書を持ってくるよう頼んだ。²それで祭司エズラは、男性や女性、聞いて理解できる年齢の人たちから成る会衆の前に律法を持ってきた。第7の月の1日のことである。

または、「書記」。

^ (ネへ 8:9) 総督*ネヘミヤ、写字生*である祭司エズラ、民を教えていたレビ族たちは民に言った。「今日はエホバ神にとって聖なる日です。嘆き悲しんだり、泣いたりしてはいけません」。民は皆、律法の言葉を聞いて、泣いていたのである。

または、「ティルシャタ」。ペルシャの称号で、州の総督を指す。

または、「書記」。



クリスチャンとして生活する

家族の幸せのために一人一人にできること

エホバは家族が幸せに暮らすことを願っています。（詩 127:3-5³ 子供はエホバからの財産、子は神からの贈り物。⁴ 若かりし時の子供は、強靱な人の手にある矢のようだ。⁵ 矢筒が満たされた強靱な人は幸せだ。恥をかくことはない。子供が町の門で敵と渡り合うから。伝 9:9 神があなたに与えてくださった、地上での短い生涯の間、愛する妻と一緒に人生を楽しみなさい。それが、地上で一生懸命に働くあなたに対する分け前だからである。11:9 若い人たち、若いうちに喜びなさい。若い間にあなたの心が喜びで満ちていてほしい。心が促す道を進み、目が導く場所に行きなさい。しかし、全てのことに關して、真の神があなたに責任を問うことを覚えておきなさい）でも、生活上のストレスがあつたり、家族からいろいろさせられたりすると、幸せではないと感じるかもしれません。では、家族みんなが幸せに過ごせるように、一人一人にはどんなことができるでしょうか。

夫は妻を大切にします。（ペテ 3:7 同様に、夫の皆さん、知識に基づいて妻と暮らしてください。女性はより繊細な器ですから、妻を大切にしましょう。妻たちも皆さんと一緒に、命という惜しみない恵みを受けるのです。妻を大切にすると、祈りが妨げられることはないでしょう）妻と一緒に時間を過ごすようにできます。妻に無理な期待をしないようにし、自分や家族のためにしてくれていることへの感謝をしましょう。（コロ 3:15 また、キリストによる平和が心に満ちるようにしましょう。皆さんは1つの体となって平和を得るために招かれたからです。感謝をしましょう）愛していることを伝え、よく褒めるようにします。（格 31:28 彼女の子供たちは立ち上がって彼女を褒め、夫も立ち上がって称賛する、31 彼女が行うことに関して報いを与えよ。彼女の働きを町の門の所で称賛せよ）

妻は夫をどのようにサポートできるか考えます。（格 31:12 彼女は生涯ずっと、悪ではなく善を行って夫に報いる）夫の言うことによく耳を傾け、喜んで協力しましょう。（コロ 3:18 妻の皆さん、夫に従ってください。それは主に従う人にふさわしいことです）夫に穏やかに話し、ほかの人と話す時にも夫への感謝の気持ち言葉に表れるようにします。（格 31:26 口を開く時には賢く語り、いつも親切の律法に従って話す）

親は子供と過ごす時間を大切にします。（申 6:6, 7 私が今日命じるこれらの言葉があなたの心に入っていないければなりません。⁷ あなたはその言葉を自分の子にしっかり教え、家で座るときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときもそれについて話さなければなりません）子供を愛していることを言葉で伝えるようにしましょう。（マタ 3:17 さらに天から声がした。「これは私の愛する子、私はこの子のことを喜んでいる」叱る時も、良い判断力を働かせ、愛情が伝わるようにします。（エフエ 6:4 父親は、子供をいら立たせないようにし、エホバが望む指導と助言によって育ててください）

子供は感謝の気持ちを忘れずに、親の言うことに従います。（格 23:22 あなたを誕生させた父親の言うこと

を聞け。母親が年を取ったからといって、軽んじてはならない) 自分の考えや気持ちを親に伝えるようにしよう。親から注意されたときも素直に受け入れ、親を敬います。(格 19:20 助言を聞き、指導を受け入れよ。将来、賢くなるためである)

「[家族の幸せのために](#)」の動画を見て、次の質問に答えましょう。

家族が幸せに暮らせるように、一人一人はどんなことをしていましたか。

一時的に消極的な反応をしても、家族のいつも良くやっているところをじっくり考え、言動に感謝や愛が表われるように努力して、家族の絆を強める機会となるようにしていた。

(以下、ビデオの内容)

巡回訪問の準備のためにやることが一杯あった。子供たちも食事の片付けをしていない。

妻が怒っているのはキッチンが汚いからだけではない。僕にも原因ある。いや、僕が原因か。

妻は本当にすごい。とても親切。働き者という言葉では言い足りない。一緒にいる人を本当に幸せにしてくれる。

愛さずには居られない。でも愛しているというだけでは駄目だ。

「これは君が正しい。これは絶対行けない。あの子たちが帰ってきたら直ぐに話す。(ありがとう。愛してる)僕も愛してる」

仕事でくたくたで家に付いたらほっとしたが、食事の片付けをしていないのを見るまでは。

会衆の仕事があるのは分かるけど、でももうちょっと。

「(疲れた?)これ、貴方から言ってよ。最近子供たち、いつもこうよ。」

黙っているから始めはイラッとした。でもそう言えば、ジョンのそこに惹かれた。おおらか。辛抱強くて。物分かりが良く。思いやりがあって。話を良く聞く人。だからいい長老。一緒にいろんな奉仕を楽しんできた。それを忘れてはいけない。私もおおらかにならなければ。

「(これは君が正しい。これは絶対行けない。あの子たちが帰ってきたら直ぐに話す。)ありがとう。愛してる(僕も愛してる)」

「奉仕に行く前にシャワーを浴びなさい。(父:ねえ、キッチンを今片付けなさい)でも今時間がない。(父:この件は言い訳なし。今だ。母:私、ピカピカにしなさいと言っちゃった。父:ああ、それで良かったと思う。妻:でもあの子たちととてもいい子で。父:そうだね。本当。巡回訪問の時は補助開拓奉仕をしている。母:他の人に親切にする。父:僕たちにも。母:あの子たちを当たり前にしてはいけない。)

(父:今日のあのことだけど、綺麗に片づけてくれた。父も母も怒ったが、これだけは忘れないで欲しい。母:二人は贈り物。エホバからの大切な贈り物。本当に愛してる。父:そういうこと。)

「姉:こんなに汚くしていったっけ。妹:これは一晩掛かる。」姉:じっくり考える機会になった。うちの親は本当に良い模範で、母は良く働く。だから家はいつも綺麗できちんとしている。妹:二人とも沢山時間をとってくれるし。姉:いろいろ助けてくれる。妹:ラブラブぶりに困ることもあるが。姉:最高の父と母。その晩、親はくどくど言わなかった。妹:一つのことを思い出させてくれた。

姉:とっても大事なことを。(父:エホバへの献身には生活の全てが関係している。自分の時間も力も家のことも。母:キッチンも。父:そうキッチンも。二人のすることはエホバのお名前に影響する。もちろん僕たち親にも。)姉:心に沁みた。もったいなくやろうと思った。」娘たちが二人で後片付けを始めた。(以上)